

これまでに寄せられた感想

◆被爆体験証言講話

○丸亀県立丸亀高等学校（香川県）

令和7年12月4日 900名

講話は、戦時中の原爆投下以前の様子からはじまり、原爆投下と被害の概要、そしてご自身の体験に戻り、被爆の瞬間やその直後の生々しい状況や、その後の避難生活の様子などを語っていただいた。生徒へのメッセージもいただき、平和のありがたさ、語り伝えることの大切さを教わった。900名の戦争を知らない世代の者たちが、当時のことを知る方から直接お話を聞くことができ、とても貴重な機会となった。生徒たちも、天野さんの語られる一言一言の重みを感じとっていた。被爆されたご本人から話を聞くのが初めてという生徒もあり、若い世代にとっても、貴重な学びができた。



○今治市立 大三島中学校（愛媛県）

令和7年12月7日 145名

被爆体験証言講話を聞いて、原爆の被害が決して過去の出来事ではなく、今もなお人々の人生に深く影響を与え続けていることを実感しました。講師の一つ一つの言葉が強く響き、戦争の悲惨さや平和を守ることの大切さを改めて感じることができました。実際に講話を聞いた中学生にとって、教科書だけでは決して得られない深い学びとなりました。参加者からの感想では、「夏休みに家族で原爆資料館へ行きました。実際に体験した方からの講話を聞くことができ、貴重な体験をさせていただきました。体験するのは自分たちでいいという姿に強さを感じました。」といった感想が寄せられました。



○東近江市立玉緒小学校（滋賀県）

令和8年1月20日 115名

忘れてしまいたいほどの辛い体験を全身で伝えようとしてくださっていることが伝わってきた。「戦争をして良いことなんて1つもなかった」という言葉が印象的だった。

人同士、国同士の考えがぶつかったときにはいけない解決の仕方が暴力やけんか、それに戦争だという話は、子どもが自分事として受け止めるのは難しかと思ったが、感想を読んでいると、「これからはもっと言葉遣いにも気をつけようと思った」というように、子どもなりに大切なことを感じ取っていたと思う。



○瑞穂町立瑞穂第三小学校（東京都）

令和8年2月17日 55名

原爆投下直後の様子について、ご自身の体験だけでなく、当時女学生だった知り合いの方の体験も絵を見せてくださりながらお話ししてくださったことで原爆について、投下直後の広島町の町や人々の様子についてより深く理解できました。子供たちも想像をはるかに超えた悲惨な状況から、あらためて原爆の恐ろしさを強く感じたようで、最後の伊藤様からの大人になった時に戦争のない国、世の中をつくってほしいとのメッセージをよりしっかり受け止めていました。子供だけでなく教員も心を大きく動かされるお話をありがとうございました。



◆被爆体験伝承講話

○岐阜市立長森中学校（岐阜県）

令和7年5月1日 300名

戦時中の広島の様子や原爆が投下された瞬間、被爆後の様子を講話いただきました。これまで生徒たちは、平和学習として『は

だしのゲン』を視聴し、佐々木貞子さんについて動画を通して学んできました。そういった中、被爆者の実体験をもとに様々なお話をいただき大変貴重な経験となりました。また、これまでどこか他人事のような戦争や原爆であった生徒も講話を聞く中で戦争、原爆の悲惨さ、恐ろしさ、そして残された人々の悲しみを感ずることができました。また、自分たちがこれから平和を守っていくために何ができるのかを考えるきっかけとなりました。



○茨木市立玉櫛小学校（大阪府）

令和7年5月20日 83名

被爆者の被爆体験を絵や映像を使ってとても丁寧に話してくださいました。ショッキングな映像を見ることに抵抗がある児童への配慮もされていて、子どもたちも安心して平和とは何かについて向き合うことができたと思います。話し方は、子どもと同じ目線に立っておられるような気がしました。時には涙を浮かべながら子どもたちに語りかけられていました。被爆者のお気持ちになって語られていたのが印象的でした。



○福岡市立原中央中学校（福岡県）

令和7年6月3日 540名

本校の生徒は、小学校の修学旅行や日頃の平和学習で福岡の空襲や長崎の原爆に関する学習は行ってきましたが、講演いただいた広島原爆に関する話を聞く機会はありませんでした。今回お話を聞け、とても良い経験になったと思います。本講演は、戦後80年を迎え戦争経験者が年々減少しているなかで、平和について考えるきっかけになりました。生徒の中には、原爆投下された国としてこの事実は決して忘れることのない、語りついでいく事実であるという感想も寄せられました。講師の温かい人柄もあり、生徒も和やかな雰囲気でお話を聞いたり質疑応答を行ったりすることができました。



○北広島市立東部中学校（北海道）

令和7年7月1日 420名

生徒たちにとって、広島に原子爆弾が落とされたという事実は知っていても、当時の様子であったり、暮らしがどのようなものであったかを知ることのできる機会はないため、貴重な話を聞くことのできる場となりました。また、当時を生き延びた方の平和への思いは、生徒たちにとっても響いたようで、講和後の振り返りフォームからは、「平和でいられることは当たり前ではないとわかった」「日常を大切にしたいと思った」という内容が多く見られ、平和の大切さを改めて認識する機会となりました。

画像を用いながら講話をしてくださったおかげで、生徒にとっては当時の様子を想像しやすかったと思います。また、最後に平和への思いを伝えてくださったおかげで、平和について考える機会となりました。



○東海村教育委員会（茨城県）

令和7年7月23日 41名

原爆という重いテーマについて、丁寧に語っていただきました。放射線がもたらした深刻な影響に加えて、戦時下の広島町の様子までも、言葉の一つひとつから鮮明に浮かび上がってきました。また、講話では、「原爆が“落ちた”のではなく、“落とされた”と言うべきだ」という話が印象に残りました。「落ちた」では自然に起きたように感じられますが、実際は人が意図的にボタンを押して投下した事実があります。「落とされた」と表現することで、その行為の主体性と責任が明確になり、歴史への向き合い方も深まると感じました。言葉の重みを改めて考えさせられました。



◆家族伝承講話

○新潟県立新井高等学校（新潟県）

令和7年6月13日 163名

講師の母親の被爆体験についてお話しいただいた。窓から B29 の姿を見て、障子を閉め腰をかがめた瞬間に閃光が走った、というくだりは、生死を分けたその瞬間がリアルに伝わってきた。そのほか、つぶれた家や救護所へ向かう父と娘、傷口の蛆虫を取るところなど、様々なシーンが絵で表現されていたが、決してグロテスクではなく、途中退席する生徒もいなかった。むしろ、あの、まるで絵日記に描かれたような絵が、本当に起こったことなのだという事を見る者に感じさせ、とても怖かった。被爆者が高齢化する中、家族伝承者という役割を担ってくださる方々に感謝しかありません。ありがとうございます。



○江田島市立江田島中学校（広島県）

令和7年8月5日 138名

講師のお父様と妹のこと、原爆投下前の広島について写真を交えて詳しく説明してくださり、当時の情景が浮かび上がるようでした。原爆投下後の広島の状況についても、大変悲惨な状況であったことを、具体的な数字や日常では起こり得ない現象を聞いて痛感しました。

原爆の悲惨さを改めて実感するとともに、被爆者の背景を詳しく知ること、命を奪われた一人一人が懸命に生き、夢をもった人間であったこと、その未来もすべて奪われたことを生徒は改めて知ることができ、このような悲劇を二度と起こしてはいけない、この記憶を後世に伝えていかなければならないということ学ぶことができました。最後に自他の命を大切にすることの重要性をお話しいただき、精一杯生きなければ、と思った生徒も多かったです。



○武雄市立武雄北中学校（佐賀県）

令和7年8月28日 36名

被爆者から受け継いだ被爆体験や平和への思いなどを話していただいた。

今では考えられないような生活をしていて戦争が終わった後でも病気が悪化したり再発したりなど戦争の悲惨さや恐ろしさがわかった。食事ができること家族や友達と過ごせることを当たり前と思わずに深く感謝したい。また、佐賀県にも原爆の被害があること、中学生は今のよう勉強できずに働いていたということも知り勉強できることにも感謝したい。世界を平和にするために、友達と意見が違って相手も否定せず、考えを受け入れることが、自分達にできる平和への一歩ではないかと考えた。生徒たちが事前に学習した佐々木禎子さんの話を途中で入れていただくなどして生徒たちも学習の深まりを感じていた。



○淡路市立一宮連合小学校（兵庫県）

令和7年9月4日 42名

広島への修学旅行をひと月後に控え、子どもたち一人一人がそれぞれに、自分にとっての平和とは、平和を手に入れるためには何が必要かを考える大きな機会をいただきました。こうして学校まで足を運んでいただけてお話を聞かせていただけたことは、自分たちが広島の地に赴く目的と意味を考える、またとない機会となりました。このような貴重な場をご提供いただいたことに、心より感謝申し上げます。目の前の児童の様子を見ながら、時折質問を交え、ゆっくり丁寧に語り掛けるようにお話ししていただきました。そのため、子どもたちはみな、最後まで真剣にお話を聞くことができました。また、今回は家族伝承ということで、ご自身のお母さまの体験をお話してくださいました。そのお話しぶりに、子どもたちの引き込まれていたと感じています。



○栃木県立栃木女子高等学校（栃木県）

令和7年9月4日 246名

講師のお母様の被爆体験談。戦時下の社会情勢、原爆投下時の衝撃、想像を絶する姿で街中をさまよい救護を求める人々の様子や、無残な亡骸があちこちに横たわる街中を、家族を探し歩いたこと。大変な姿になった母と出会い、医薬品なしで獣医師の治療を受け一命を取りとめたこと。数年後、結婚、出産したが、子どもは原爆症により数日で亡くなり、原爆による被害が投下時だけでなく、その後ずっと続くということ。また、講師が国連やピースボートで証言したことなど、世界平和へ向けての活動内容についてお話いただきました。

生徒は過去にも、小中学校で話を聞いたり、映画等で原爆について見聞きたりしているが、講話を通して、被爆された方が現実にはいたことをより現実的なものとして感じ、原爆の恐ろしさや平和の尊さを再確認していました。



◆原爆体験伝承講話

○多摩市役所（東京都）

令和7年6月29日 25名

平田忠道さんやご一家の紹介、原爆投下前の生活や広島の様子、さらには原爆の被害状況などの事前情報を学んだうえで伝承講話を受けたことで、講話の内容を自然に理解することができました。特に、爆心地や被害が大きかった範囲を多摩市の地図に当てはめて説明していただいた部分は、広島に行ったことがなく距離感をつかみにくい子どもたちにとっても、自分の住んでいる街に置き換えて被害の大きさを想像でき、とてもわかりやすかったと感じました。また、伝承講話からは文字だけでは伝わりきらない臨場感や被爆者の思いが強く伝わってきました。



○二戸市立石切所小学校（岩手県）

令和7年7月18日 34名

講師が受け継いだ、広島被爆者・平田忠道さんの被爆体験や平和への思い、沢村さんが、様々な場所で原爆や戦争のことを語り継いでいく理由、沢村さんの叔父にあたる方も原爆の犠牲となったこと、未だ行方不明であることもお話しいただきました。戦争を「昔のこと」と思うのではなく、「自分も生き残った方々の子孫なのだから関係者なのだ」という思いを持ってほしいという沢村さんの思いも聞くことができました。本校の6年生は、戦争についてほとんど知ることもなく過ごしてきました。戦争の資料を見せていただいたり、講話を聞いたりすることで、戦争の恐ろしさ、家族を亡くすことへの悲しみなど様々な思いを持つことができました。



○千葉県立長生高等学校（千葉県）

令和7年9月11日 280名

講師の講話は、生徒にとって理解しやすい表現で語られ、難解な言葉を避けながら体験の一つひとつを丁寧に説明していただいた。話の区切りごとに考える時間を設け、生徒が自ら体験を想像し、平和の意味を考えることができるよう配慮されていた。また、全体を通して口調はやわらかく、落ち着いた語り口であったため、生徒は安心して耳を傾け、真剣に学びを深めることができた。



○柏原市立旭ヶ丘小学校（大阪府）

令和7年11月27日 190名

今回、3年生～6年生という幅広い学年を対象に講話をお願いしましたが、全学年が理解できるように言葉の意味を説明しながらお話を進めてくださり、とてもわかりやすかったです。

子どもたちが当時の状況を想像しやすいよう、柏原市の地図を用いたり、柏原市の人口を例に挙げたりする等、身近なもので考えることができるように工夫してくださっていました。子どもたちは、平田忠道さんとそのご家族のお話にも感情移入しながら聞いており、戦争の恐ろしさや平和の素晴らしさを改めて感じ、考える良い機会になりました。子どもたちが聞き取りやすい優しい声でお話されていましたが、時々、声色を変えて、当時の緊迫した状況を表現されていたのが印象的でした。



○小平市役所（東京都）

令和8年3月7日 105名

「託されたこと」と題し、広島被爆者である故人・平田忠道さんの被爆体験をその次女である講師様にご講話いただきました。参加者から次のような感想が寄せられました。

- ・講師の父親の思いを伝えておられる姿、心打つお話でした。
- ・中学3年生のお父様が必死になってお母様と弟を捜し求める姿が心に焼き付きました。
- ・「力で屈服はダメ」これは、今の世界・日本の現状で一番のキーワードだと思います。
- ・伝承の大切さ、平和教育の大切さ、未来をたくす子ども達が現実をみていてくれる大切さ、考えさせられました。

当時の状況を臨場感あふれる話し方・内容でお話し頂き、改めて平和の大切さを考えさせられました。



◆被爆体験記朗読会

○四国中央市立寒川小学校（愛媛県）

令和7年6月13日 45名

体験記の内容はとても苦しくつらい思いが詰まっているものだが、そこから子どもたちは、被爆された方一人一人が大きな悲しみや苦しみを一生背負って生きていることを学んだ。また、



本当は話すのもしんどくなる、つらく苦しい話を文章にして他の人に伝えよう、後世に残そうという被爆された方々の思いを代弁していただき、文や詩に込められた平和を願う気持ちに児童は感動していた。子ども自身が声に出して朗読する機会や、思いを語る時間を取っていただき学びが深まった。

○亀岡市教育委員会（京都府）

令和7年8月23日 56名

導入として、DVDを鑑賞し被爆時の状況を再確認できたので、その後朗読していただいた体験記や原爆詩が、一人ひとりに起きた生々しさと残された言葉に込められた思いを感じとれて、平和の尊さを考える機会となった。

朗読ボランティアの体験記の朗読を聴いた後に、各グループで実際に読んでみると、声質も表現も人それぞれだが、朗読だからこそ伝わる言葉の力を感じた。熱い思いが込み上げてきて、涙される場面もみられた。

優しい語り口で、心の中にしっかり言葉が響く読み方であった。敢えて詩集を伏せて、目を閉じて聴き入る方法も各自の頭の中で映像化出来て良かった。



○七尾市立東湊小学校（石川県）

令和7年9月30日 40名

体験記や原爆詩の朗読を聞き、実際に広島で起きた被爆者の皆様の体験が、まるで目の前で繰り広げられているかのように思い浮かびました。その内容は、どれも悲しく、恐ろしいものばかりであり、原爆の非人道的な恐ろしさと命の大切さを改めて痛感いたしました。また、朗読だけではなく、ボランティアさんから広島の前爆に関する詳細なお話を伺えたことは、大変貴重でした。生徒たちにとっても、貴重な体験ができたと思っています。活字で読むのとは違い、ボランティアさんの声の抑揚や間を通して、被爆者自身の悲しみや怒り、そして平和への強い思いが直接心に響いてきました。



○田川市立弓削田小学校（福岡県）

令和7年11月4日 63名

まず初めに広島原爆について概要を説明して頂きました。子どもたちは、原爆の悲惨さを講話の中での説明やDVDを通して感じることができました。

次に、原爆体験記や詩の朗読をしていただきました。教科書で触れ合うものとは違い、体験記や詩に描かれた当時の広島情景や書き手の心情が自分事のように感じる時間となりました。中には、「え!」「うわ、…」と思わず自分の心に出てきた感情を口に出す子どもたちも見られ、これからの修学旅行での学習に向けてよい機会となりました。詩の書き手の思いに寄り添った読み方であったため、子どもたちも感情移入できるものでした。また、自分だったらという問いかけに朗読を聞きながら、考える子どもの姿が見られました。



○大和市平和都市推進事業実行委員会事務局（神奈川県）

令和8年3月7日 171名

参加者からは、現地から語り手を迎え朗読いただいたことで、「感動が直接伝わってきた」という感想や、「映像と朗読が組み合わせられ、戦争の実相を具体的に想像できた」との声が寄せられました。特に、「自分たちで朗読したこと」が印象的で、「被爆体験がより身近に感じられた」と、参加者が能動的に関わる内容が効果的でした。「今日話を家族に伝えたい」「自分も平和活動に参加し行動したい」との意欲も示されました。

朗読会全体を「大変よかった」と評価する声が多数で、「貴重な話が聞けて勉強になった」「また朗読会をお願いします」と継続を望む感想もあり、参加者の満足度の高さがうかがえました。

